



千葉大生×墨田区で街を一緒に面白くする 「墨田区プロトタイプ実証実験」を 一緒に知ろう・語ろう！



2023年4月26日

主催：墨田区／共催：千葉大学IMO／後援：千葉大学dri



プログラム

時間	コンテンツ	スピーカー
18:00	オープニング	モデレーター（片桐特任教授）
18:00-18:20	「墨田区プロトタイプ実証実験」の紹介	ゲストスピーカー（吉川さん）※
18:20-18:50	パネルディスカッション～当事業への期待～	ゲストスピーカー（落合さん、小牧さん、吉川さん） モデレーター（片桐特任教授）
18:50-19:00	質疑応答	モデレーター（片桐特任教授）
19:00	クロージング	モデレーター（片桐特任教授）

【18:00】
オープニング



Speakers



墨田区産業観光部
産業振興課
吉川 栄一 さん



千葉大起業サークル
CSC代表
落合 那旺 さん



一般社団法人を
立上げ予定！博士課程
小牧 瞳 さん



千葉大学IMO
特任教授(モデレーター)
片桐 大輔 さん



【18:00-18:20】

「墨田区プロトタイプ実証実験」の紹介



ひと、つながる。
墨田区

墨田区について

- 位置: 東京東部、隅田川の東
- 誕生: 昭和22(1947)年 向島区と本所区が統合
- 面積: 13.77km²(17番目/23区)
- 人口: 約28万人(16番目/23区)

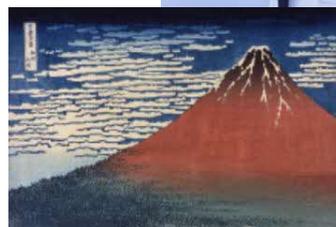


平成28年経済センサス

江戸からの伝統が息づくまち



墨堤の桜



葛飾北斎



隅田川花火大会

ものづくりの歴史・背景:近代軽工業発祥の地

江戸時代	1657年 明暦の大火 ⇒ 1659年 両国橋架橋 北部:農村、職人の住む地域／瓦、ロウソク、鋳物、刷毛 南部:武家屋敷／編み物、足袋
明治初期	政商・西村勝三氏が授産事業として、靴・メリヤスの製造拠点 軍需産業 :靴・靴・ベルト・帽子・肌着・時計
大正時代	洋装化に伴い、 軍需品から日用品 へ転換
昭和時代	戦後復興、朝鮮戦争特需、高度成長期の到来 大量生産・大量消費 1970年 区内工場数が 9,703社 とピークに



花王工場(昭和10年頃)

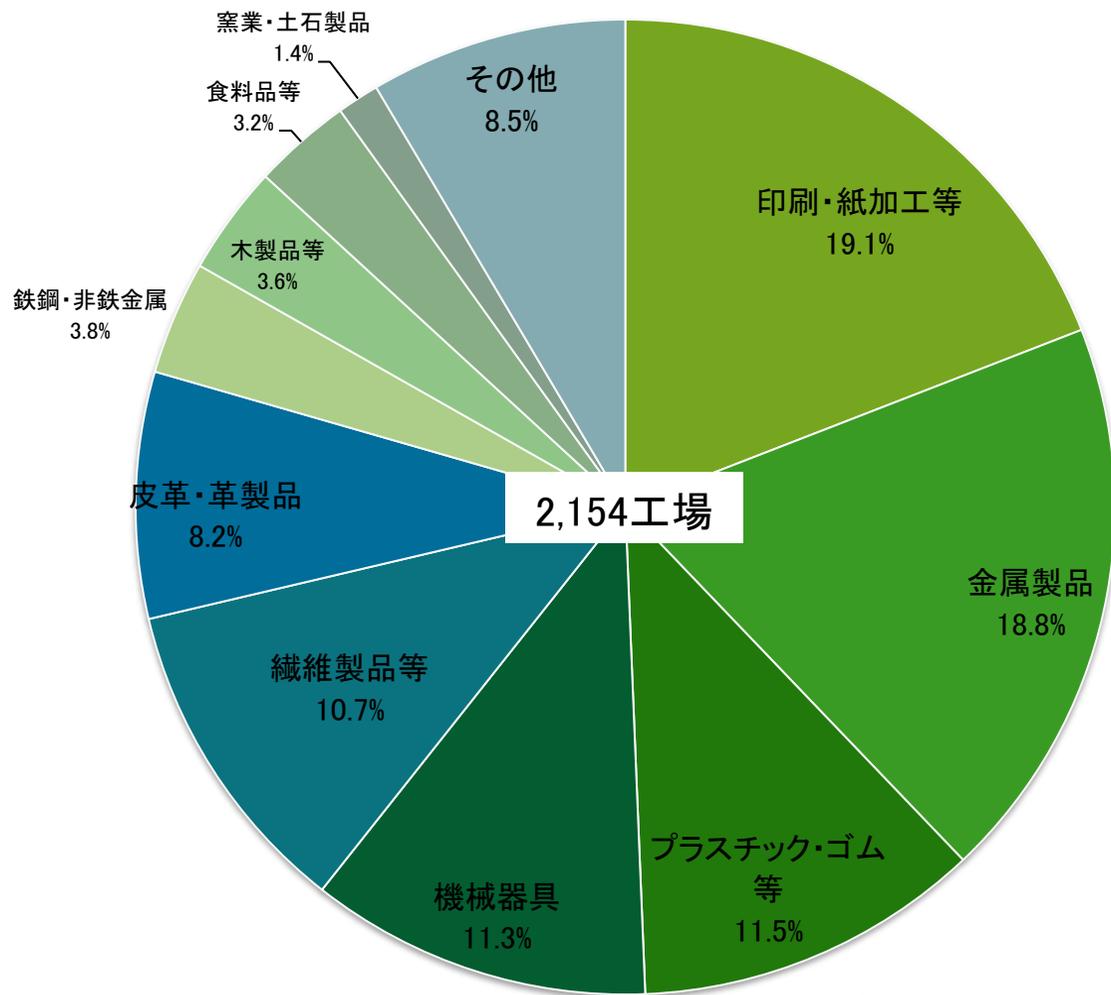


ライオン煉歯磨



アサヒビール

墨田区産業の現状・課題①



- 東京都内で**第2位**
- **多種多様な業種が**集積

平成28年 東京の工業

墨田区における産業振興施策

中小企業基本実態調査 (1977~1978年)

当時の係長級職員180人が区内の全製造業を訪問する実態調査を実施



墨田区中小企業振興基本条例 (1979年)

全国初の中小企業振興基本条例
産業振興を区の最重要施策に



墨田区産業振興会議 (1980年)

座長 関 満博氏(一橋大学名誉教授)
具体的な施策を提案する諮問機関

ハード：新ものづくり創出拠点など



ソフト：フロンティアすみだ塾など

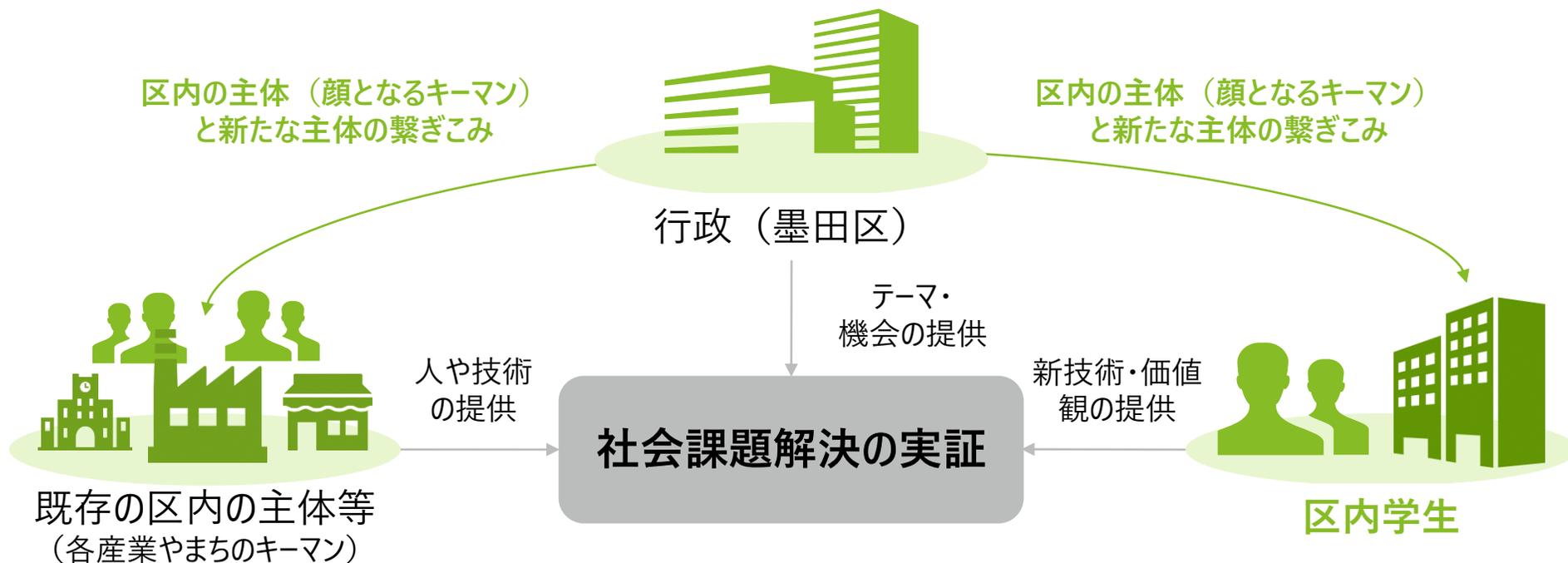


墨田区における産業振興施策の1つである
「墨田区プロトタイプ実証実験支援事業」において

**墨田区内の大学に在学・法人登記している
学生が参加できる「区内学生枠」を新設！**

墨田区プロトタイプ実証実験とは

スタートアップが有する先端的なサービス・価値観、区政現場が抱える社会課題、区内ものづくり企業・区内大学と協業した**社会課題解決型の実証実験**



令和4年度の実証実験の紹介

No.1 デジタル化による区内中小企業の業務改革：株式会社セラピア



ノーコードの力を証明する

世界中を見渡すと優れたノーコード/ローコード技術が存在します。
私たちはこれらの技術の可能性を引き出し、
その価値を正しく広めていくことで、
誰もが開発者として活躍できる社会を実現します。

令和4年度の実証実験の紹介

No.1 デジタル化による区内中小企業の業務改革：株式会社セラピア

- 区内ものづくり企業を実証フィールドとし、従業員向けにノーコードツールの導入と内製化に向けたコーチングを行う「デジタル人材育成を通じたDXの土台づくり」に挑戦



令和4年度の実証実験の紹介

Refalover[リファラバ]～毎日新聞のファミリービジネス・メディア 3/22掲載

<https://refalover-note.mainichi.jp/n/n5f26f45e54f4>



「現場から始めるDX」。墨田区の若手経営者 タッグが始めた町工場のノーコード・アプリ制作

♡ 10

Refalover[リファラバ]～毎日新聞のファミリービジネス・メディア
2023年3月22日 08:30



「ものづくり」とアプリ作成は同じ

自前アプリの作成に用いたのは、コードを書く専門知識もシステム開発も必要がなく、直感的にアプリを開発できる「ノーコード」と呼ばれるツールだ。

2020年の創業以来、ノーコード・アプリを誰でも作成できるようにする教育プログラムを開発してきたスタートアップ企業、セラビアの田中さんを講師に迎えて始まった連1回2～3時間のプログラム。1カ月の基礎講習を経て自作アプリをつくり始めると、予想もしなかった変化が社員の間に現れた。

働き過ぎを防ぐため、アプリ制作に使った時間に残業代は発生させないと周知していたが、それでも自宅でアプリを自作する社員が続き出てきたのだ。アプリをつくるのが面白く、早く仕上げたいという気持ちが強まったからだった。

「ものづくりは現場の問題点を発見し、その改善と工夫の繰り返し、アプリ作成も現場の困り事を見つけ、DXによる改善を着想するところから始まり、誰もが使いたくなる使い勝手の良さを工夫していく点で全く同じ。ものづくりの好きな社員はアプリ作成も得意になると確信した」と北澤さんは語る。



企業管理アプリを自作したバキュームモールド工業の安部英人さん

アプリが現場と経営層をつなぐ

同じく製造部の森浩さんが作成したのは、工場内に何十台もある加工機械の点検・メンテナンス状況を見える化するアプリだ。

従来は、機械の近くに備え付けた用紙に点検・メンテナンスの記録を書き込んでいたが、うっかり期日が過ぎてしまうこともあった。自作アプリでは期日が近づくと機械ごとに青いマークが表示され、期日が過ぎると赤いアラートが出て担当者に知らせる。点検・メンテナンスを実施したら、担当者がアプリ上で記録し、所長も職場全体の状況を把握できる。

もう一つの工夫は、機械ごとに不具合や修理の履歴、修理費用も記録、表示するようにしたことだ。点検・メンテナンスの重要性を見える化できるように加え、経営層が修理の頻度や費用を見ながら機械の更新について判断しやすくなるデータを蓄積していく。森さんは「このアプリで現場と経営層のそれぞれのニーズを合流させることができた」と胸を張る。

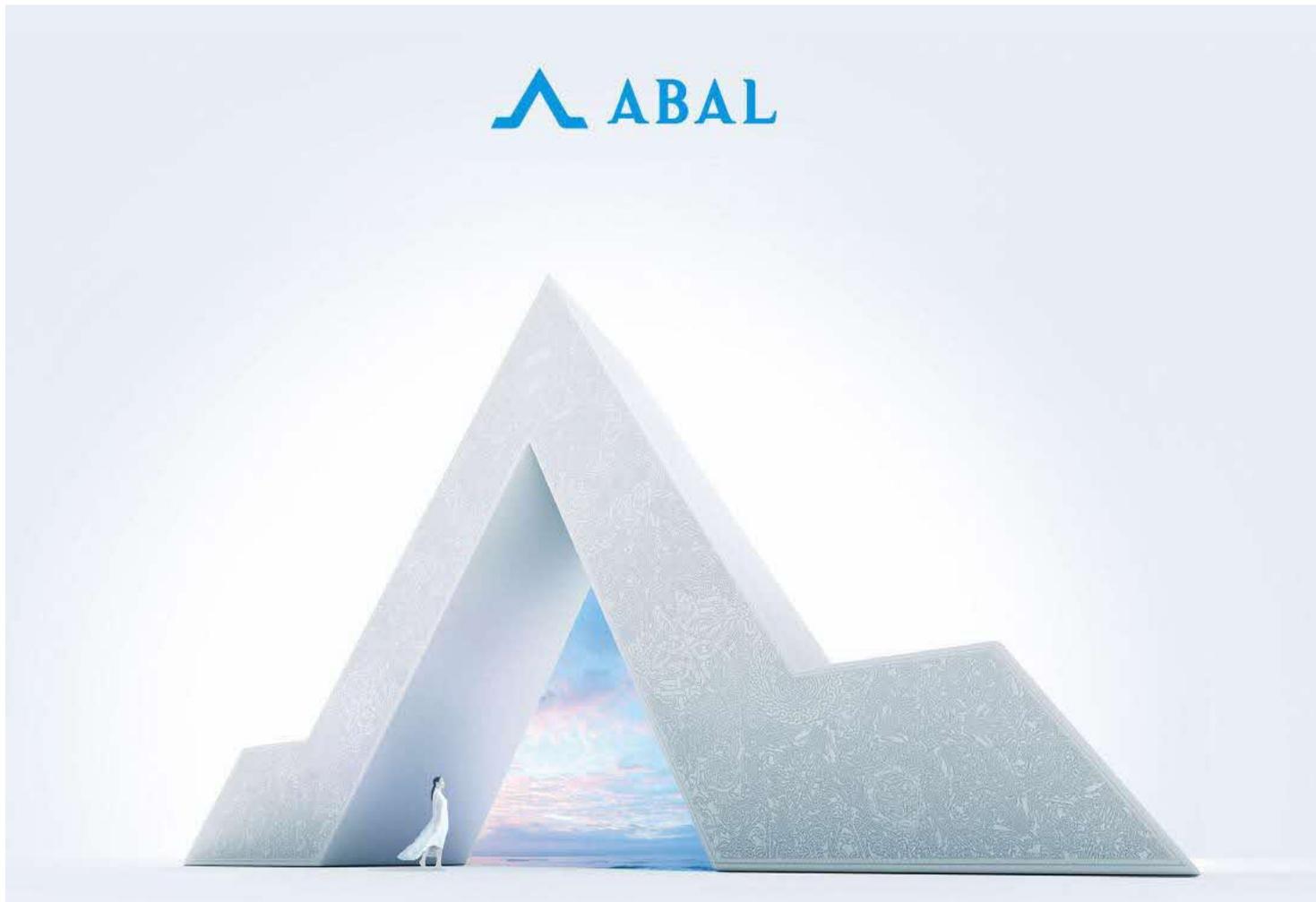
このほかにも、取引先に出す見積りを簡単に計算できるアプリ、文書で行われていた社内承認手続きを電子化するアプリが生まれている。



アプリ開発の中間発表会には各部署の管理職も参加し、社内への浸透を図った

令和4年度の実証実験の紹介

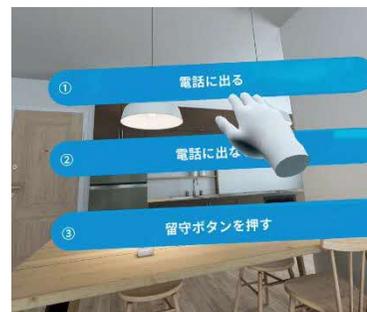
No.2 ヴァーチャル体験による高齢者の特殊詐欺被害防止：株式会社ABAL



令和4年度の実証実験の紹介

No.2 ヴァーチャル体験による高齢者の特殊詐欺被害防止：株式会社ABAL

■ 特殊詐欺を減らすためにXR技術を使った被害回避トレーニングサービス制作に挑戦



令和4年度の実証実験の紹介

NHK首都圏ネットワーク「STOP詐欺被害！」（TV放送／WEB）3/10放送・掲載
<https://www.nhk.or.jp/shutoken/net/20230313s.html>



詐欺のさまざまな手口をお伝えし、被害を未然に防ごうという「STOP詐欺被害！」。
今回は、「VR＝バーチャルリアリティーの技術を使って詐欺の手口を知ってもらおう」という取り組みを紹介します。

2月27日、東京・墨田区に集まった高齢者たち。装着しているのは、VRゴーグルです。



ゴーグルをつけると、目の前には、自宅のリビングにいるような映像。
すると・・・。「もしもしおれだけど・・・」「おれ」だと名乗る人物から電話がかかってきました。
表示された選択肢を選ぶと、そのシナリオに沿ってストーリーが進んでいきます。



開発した民間企業「アバル」壺嶋プロデューサー

「オレオレ詐欺の一連の流れを電話をとるところから経験できます。バーチャル上でつくって経験してもらうことで、詐欺の対策につながるのではないか」

令和4年度の実証実験の紹介

No.3 健康促進サービスの活用による高齢者の健康増進：株式会社Moff

ウェアラブル端末やオンラインを活用した高齢者向けの健康増進サービスにより、身体機能向上、QOLやデジタルデバイド解消等に挑戦



No.4 雨水の活用による資源の再利用の促進：WOTA株式会社

区内大学に実証実験用のトレーラーハウスを設置して社員が住み込み、生活排水の再生技術の検証や雨水の利用拡大等を検証



No.5 探求コンテンツの活用による児童・生徒のSDGsの関心度向上の推進：株式会社うちゅう

各学校で重点を置くテーマ（人権、デザイン思考、キャリア教育など）を題材に探究教育プログラムを実施し、生徒の関心度向上や行動変容を検証



墨田区における産業振興施策の1つである
「墨田区プロトタイプ実証実験支援事業」において

**墨田区内の大学に在学・法人登記している
学生が参加できる「区内学生枠」を新設！**

本実証への区内大学生の参加

- 令和5年度から区内学生が応募できる「区内学生枠」を新設
- 社会課題解決に資する実証テーマであれば、ジャンルや領域は問わないフリーでの提案

区内学生枠

応募資格	<ul style="list-style-type: none">• 法人格を有する団体（中小企業、一般社団法人・一般財団法人、特定非営利活動法人）• 上記を満たし、かつ応募企業・団体の代表者が、墨田区内に本部またはサテライトオフィスを設置している大学に在学中であること
実証テーマ	<ul style="list-style-type: none">• 具体的な課題・実証テーマに対する提案ではなく、応募者自身が行いたいと考える課題・実証テーマと解決策を提案• 社会課題解決に資する実証テーマであれば、ジャンルや領域は問わないフリーでの提案が可能
採択件数	<ul style="list-style-type: none">• 本事業で実施する実証実験は最大5件となり、区内学生枠での採択は最大1件を想定

本実証への区内大学生の参加

- 多様な支援メニューにより、採択された学生スタートアップの実証実験をサポート

社会課題解決の実証が行える環境の提供

- 区政現場とのマッチング
- 実証開始に向けた調整支援
- 実証実験の実施協力
- 実証支援金による支援

実証支援金は
200万～250万

実証をサポートする 地域ネットワークの提供

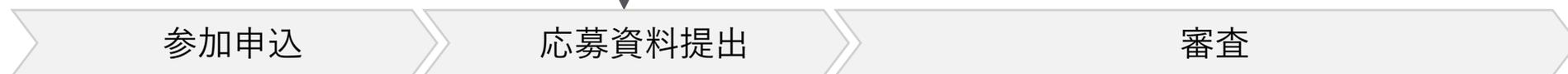
- 区内企業・大学との協業支援
- 区内リレーションとの協業支援
- ビジネス相談・ビジネス関係者とのマッチング支援

次年度以降の実証・実装展開に 向けた支援の提供

- 実証実験の継続支援
- 採択スタートアップのプロモーション支援

本実証への区内大学生の参加

- 5月9日に事業説明会を実施
- 公募参加申込の期限：5/17(水)17:00まで（応募資料提出は5/26(金)17:00まで）



- 5/9(火)説明会を実施 (@TOKYO UPGRADE SQUARE)

- 5/17(水)17:00までに申込

- 5/26日(金)17:00までに提出

- 6月上旬 一次審査 (書類審査)
- 6/21(水) 二次審査 (プレゼン審査)

【18:20-18:50】

パネルディスカッション～当事業への期待～

Speakers



墨田区産業観光部
産業振興課
吉川 栄一 さん



千葉大起業サークル
CSC代表
落合 那旺 さん



一般社団法人を
立上げ予定！博士課程
小牧 瞳 さん



千葉大学IMO
特任教授(モデレーター)
片桐 大輔 さん

【18:50-19:00】 質疑応答



【19:00】
クロージング



プロトタイプ実証実験のセミナー兼説明会 参加申込受付中！（申込ページ→）



2023.5.9 TUE 18:00 – 19:10 TUSイベントスペース

TOKYO UPGRADE SQUARE SEMINAR EVENT

墨田区×スタートアップ×区内ものづくり企業×区内大学による
オープンイノベーション

**墨田区プロトタイプ実証実験
支援事業 令和5年度公募開始！**



株式会社 Moff
代表取締役社長
土田 泰広 氏



墨田区産業観光部
産業振興課
産業振興担当主査
吉川 栄一 氏